

高崎山通信

Takasakiyama Public relations magazine

国立公園
高崎山
自然動物園
2022.秋号
No. 3



写真提供：榎木 様

70th Anniversary

写真募集中!!

皆さんの撮影したステキなお写真で表紙を飾ってませんか。
なお、お写真・データはお返しできませんので、ご了承ください。



スタッフブログ、フェイスブック、Instagram、Youtubeで
高崎山自然動物園のサルの出来事を紹介しています。

国立公園 高崎山自然動物園 70周年記念イベント

高崎山自然動物園は1953(昭和28)年3月にスタートして以来、2023(令和5)年3月15日で開園70周年を迎えます。

そこで2022年4月からおもに毎週土曜日に70周年記念イベントを行っています。イベントの内容としては、じゃんけんで勝ち残ったお客様限定で、サル寄せ場の柵の中でサルと一緒に記念撮影ができる「おサルと一緒に記念撮影」をはじめ、特定のサルを捜して高崎山オリジナルグッズがもらえる「君は見分けられるか!?あいつを捜せ!」、子どもを対象にした「目指せ全問正解子ども〇×クイズ大会」などを実施しています。

また、2023年3月までは毎月第3土曜日を「無料の日」とし、どなたでもお気軽に高崎山に足を運んでいただける日となっています。なお、同日には10時07分から16時07分まで毎時07分にじゃんけん大会を開催し、勝ち残った1組のお客様には、記念撮影をした写真を高崎山70周年限定オリジナルフォトフレームに入れて無料で差し上げるというイベントを開催しています。



70周年記念オリジナルフォトフレーム



大人気のじゃんけん大会

どのイベントも参加される方が多く、イベントの時間にはサル寄せ場は大変な盛り上がりになります。まだまだこれからも高崎山自然動物園開園70周年記念イベントを開催していきます!

ぜひ高崎山自然動物園のホームページでイベントの情報をご覧いただき、ご来園される際のお楽しみにしていただきたいと思います。



★ 大分市内の小学生・中学生は入園料無料です。学生証などを見せて入園してください。

高崎山自然動物園の公式ウェブサイト

高崎山自然動物園

高崎山自然動物園

〒810-0802 大分市神橋3098-1
TEL:097-532-5010 FAX:097-536-2300

E-mail: info@takasakiyama.jp
http://www.takasakiyama.jp/

B群、二匹の牝それぞれ

第1位「ヤケイ」

～就任から1年経過・ボスとして生きる～



2021年7月30日、高崎山自然動物園の歴史を揺るがす大きな出来事が起こりました。それは、B群メスサル「ヤケイ」の第1位就任でした。高崎山自然動物園は、1953年に開園し現在までの70年近い歴史の中で、群れの第1位になったサルは全てオスサルでしたが、今回、初めてメスサルが群れの第1位となりました。

ヤケイは、B群のメスサルの中で地位の高い「ビケイ」の子として生まれ、群れの中心部で生活をしていました。ヤケイは特別目立つようなサルではなかったため、上位のオスサルを次々とケンカで倒しB群第1位の座を掴んだことは「予期せぬ出来事」でした。日増しにヤケイがB群の中でも目立つようになり、私たちスタッフは日々ヤケイの動きを観察していきました。そのような中、一番興味があったのは恋愛シーズンでした。11月から3月の恋愛シーズン、どのオスサルがヤケイに求愛するのか、そして求愛の仕方は他のメスサルと同じなのか。ヤケイは誰かに求愛するのか。恋愛シーズンが終わったあとヤケイの立場はどうなるのか。

待ちに待った恋愛シーズン。ヤケイは多くのオスサルから求愛を受けました。そしてヤケイも多くのオスサルに求愛をしていました。本来オスサルはメスサルに咬みついたりして求愛をしますが、B群第1位のサルであるヤケイに咬みつく勇氣のあるオスサルはあまり見られず、ヤケイの様子を伺いながらそっと近づいていくような状態でした。一方のヤケイは好意を持ったオスサルに対して、自分よりもかなり弱い立場であれば後方から体にしがみついたり覆いかぶさる等の激しい行動が見られました。対照的に、ある程度の高順位のサルたちにはヤケイなりに気を遣いながら近寄る様子を見ることができました。

4月になり恋愛期が終わりに近づき、真っ赤になっていたサルたちの顔色も本来の色に戻っていく中、ヤケイに限っては赤いまま、今度はオスサルではなく何故かメスサルに興味を示すようになりました。メスサルとの恋愛の様子を見てみると、お互いに顔をのぞき込んだり、目を見つめたりオスサルとの恋愛とは違った様子も見られました。

7月になるとヤケイの長〜い恋愛シーズンは終わりを迎え、顔色の赤みが薄れ通常の生活を送るようになります。最近では毛艶も良く、園内を「私が一番よ!!」と言わんばかりに尻尾を上げて堂々と歩く姿を見ると惚れ惚れします。

今後もヤケイの動きを注意深く観察していきたいと思っています。

悠々自適なヤケイの生き様



「マツバ」の子育て

～珍事から1年経過・母として生きる～



B群マツバ(19才)は昨年(2021年)6月30日に、我が子と一緒に迷子の赤ちゃんザルを抱いて山から下りて来て私達を驚かせました。

早いものであれから1年が経過し、マツバは現在も2頭の子育てに奮闘中です。そこで、これまでの子育ての様子について、振り返ってみたいと思います。

■2021年7月初め、生後1カ月を過ぎた赤ちゃんザルたちが徐々に歩き回る頃、マツバは常に2頭を気にかけており、授乳の際は2頭同時に乳を含ませていることが多く、マツバに抱きしめられながら乳をもらう赤ちゃんザルたちは、とても安心した表情をしていたのが印象的でした。

また、どこを移動する時もマツバと赤ちゃんザル2頭はいつも一緒でした。マツバは1頭を胸元に、もう1頭を背中側にしがみつかせ、背中 of 赤ちゃんザルが落ちないように気遣い、マツバが尻尾をストッパーの代わりに立てて歩く姿をよく目にしました。

■2021年10月、山が徐々に実りの秋を迎える頃、生後4カ月を過ぎた2頭の赤ちゃんザルは小麦を拾うのが上手になりました。園内で与える小麦の粒で小さなホホ袋がふっくりと膨らんでいる姿を見て、2頭とも無事に成長しているのを感じ、ほっとしたのを覚えています。

■2022年1月、落葉し、園内の木々が枝だけになり、寒々としたサル寄せ場の片隅で、初めて冬を迎える2頭の赤ちゃんザルをマツバがしっかりと胸に抱き寄せている姿をよく見かけました。少しでも風が当たらないように寒さを凌いでいたのでしょう。

■2022年4月、木々の芽は膨らみ、桜の花は一斉に花開き、ようやくサル寄せ場に春が訪れました。2頭の赤ちゃんザルは、厳しい冬を乗り越えたことで、心なしか大きく逞しく見えるようになりました。それでもマツバのお腹と背中しがみついて移動していました。

■2022年7月、今年は梅雨が早く明けました。暑い日が連日のように続き、サルたちの体力を奪います。そんな中、マツバ親子は毎日元気な顔を見せてくれました。1才を過ぎても、2頭ともまだマツバにしがみついています。

マツバの懸命な子育てが繋げた小さな2つの命です。2頭ともオスザルのため、いずれマツバの元を離れる日が来るでしょう。それまで静かに見守っていきたいと思います。



▲兄弟のような子ザルたち